

地震防災対策～自助・共助～（熊本地震から学ぶ）

アナ： 「市長が語る 2016 三島」第24回の今日は、「地震防災対策」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 今年の4月に「熊本地震」が発生し、三島市でも被災地支援を行ったと聞いておりますが、支援内容について教えてください。

市長： まずは、被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げます。三島市では4月下旬から7月にかけて熊本県嘉島町に述べ13人の職員を派遣しました。派遣職員は、「家屋被害状況調査」や「り災証明の発行」、「生活再建支援制度窓口業務」等の、住民に直接関係する業務の支援を被災地で行いました。

また、三島市役所におきましても、玄関ホールに募金箱を設置し、日本赤十字社を通じ被災地へ義援金を送付しております。

アナ： 多くの職員を被災地に派遣したのですね。派遣から戻ってきた職員からはどのような報告がありましたか。

市長： 派遣から戻る度ごとに、直接職員から報告を受けました。被災地の痛ましい状況や自治体の対応事務等についての報告ですが、それを聞く度に災害に対する備えをしっかりと行わなくてはいけないと思いました。

アナ： 具体的に私たちは、どのような備えをするべきなのでしょう。

市長： 大地震が発生すると、物資等がすぐには住民には届きません。また、避難所も役場の職員を頼っているばかりでは円滑な運営ができないという実情が、熊本の現場では見受けられました。

防災への心がけといたしましては、「自らの命は自ら守る」「自らの地域は皆で守る」ということが大切ですので、そのための準備として、各家庭においては「建物の耐震化」、「家具の固定」、「水・食料等の備蓄」、また地域においては「防災訓練」、「避難所開設訓練」を積極的に進めていただきたいと思います。

アナ： 今、市長がおっしゃった「水・食料等の備蓄」についてですが、いつもどのくらい備蓄をしたらよいか迷ってしまいます。目安として、何日分備蓄したらよいのでしょうか。

市長： 東日本大震災の教訓から、水は1人1日3リットル計算で7日分。食料等も7日分、そしてトイレ対策の備蓄も行っていたきたいと思います。乳児のいる世帯、高齢者世帯等必要なものも各家庭で異なりますので、各家庭の状況に応じた備蓄をお願いします。

アナ： ぜひ、みなさん「水・食料等の備蓄」を初め、「建物の耐震化」、「家具の固定」は、すぐに個人でできることなので実施していただければと思います。

次に、地域で行う対策のうち「避難所開設訓練」とは、どのような訓練なので

しょうか。

市長： 災害時には、複数の自主防災組織が主体となって、避難所を運営することになります。三島市では、避難所のすべてのレイアウトが決まっておりますので、避難所開設にあたり、避難所レイアウトの作成や入室訓練、簡易トイレの設置などを実際に行ってみる訓練が「避難所開設訓練」です。

アナ： 実践的な訓練ですね。これからやってみようと思う時にはどのようにすれば、いいのでしょうか。

市長： 市役所でもお手伝いをしますので、担当の危機管理課にご連絡をお願いします。

アナ： 平時から訓練しておくことが大切ですね。ところで市長、私は熊本地震発生後、疑問に思ったことがあるのですが、家が損壊し、車中泊や地域の公園などにテントを張っている方や在宅避難者への支援はどのように行われるのでしょうか。

市長： 三島市では、各自主防災組織でそのような方々の避難の状況を把握していただき、必要な支援物資を指定されている避難所へ要請していただくこととしております。避難所では、避難所で必要な分と地域で必要な分を取りまとめて本部へ要請していただき、本部から各避難所を通して支援物資を配布する予定です。

アナ： まず、地域の自主防災組織が周囲の状況を把握するということですね。その自主防災組織が行う防災訓練も大切だと思いますが、その他の訓練で地域としてやっておくべきものはありますか。

市長： 三島市が推進している「黄色いハンカチ」での安否確認訓練や要配慮者の避難誘導訓練、負傷者の搬送など様々な訓練がありますが、ぜひ実践的な訓練を多くの自主防災組織で行っていただきたいと思います。

アナ： 本日のお話を伺い、私も大地震に備え、大切な家族を守っていくため、今できることを実践していきたいと思います。豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。